

一 無上宝聚 不求自得の事

仰せに云はく、此の無上宝聚に於て、一には釈尊の因行果徳の万行万善の骨髓を宝聚と云ふなり、二には妙法蓮華經の事なり。不求とは、中根の四大声聞は此くの如き宝聚を任運自在に得たり。此実我子 我実其父の故なり。総じては一切衆生の事なり。自得と云ふは、自は十界の事なり。此は自我得仏來の自と同じ事なり。得も又同じ事なり。末法に入りては自得とは日蓮等の類なり。自とは法華經の行者、得とは題目なり。得の一字には師弟を含めたり。与ふると得るとの義を含めたり。不求とは仏法に入るには修行覚道の辛勞あり。釈迦如来は往来娑婆八千反の御辛勞にして求め玉ふ功德なり。さて今の釈迦牟尼仏と成り玉へり。法華經の行者は求めずして此の功德を受得せり。仍って自得とは説かれたり。此の自の字は一念なり、得は三千なり。又自は三千、得は一念なり。又自は自なり、得は他なり。総じて自得の二字に法界を尽くせり。所詮此の妙法蓮華經を自づより得たり。自とは釈尊なり、釈尊は即ち我が一心なり、一心の釈迦より受得し奉る南無妙法蓮華經なり。日蓮生年三十二にして自得し奉る題目なり云云。